

1. TCS国際シンポジウム

音／声の文化史

The Cultural History of SOUND / VOICE

2022年1月29日、30日 オンライン開催 (Zoom)

共催：名古屋大学大学院人文科学研究科附属超域文化社会センター、
文科省科研費基盤研究 (A) 18H03568「建国初期中国を移動する身体芸術メディア・プロパガンダ―戦時期からの継承と展開」(研究代表者：星野幸代)、
一般財団法人伊藤忠兵衛基金研究助成「大学合唱団の歴史的展開と日本社会に関する研究」(研究代表者：河西秀哉)



一瞬にして消えゆく音や声は、近代以降の技術革新によって記録・複製され、そのあり方を大きく変化させてきた。メディアは音と声を広範囲に届け、私たちは、時期や空間を隔てて、同じ音や声を聞く体験を有してきた。音や声は芸術としてあっただけではなく、そこには、その時代の社会のあり方が刻印され、時には政治性を持ち合わせてもいた。

近年、人文科学ではこうした音や声に注目した研究が数多くなされ、成果を挙げている。本シンポジウムはこれまでの研究成果に学びながら、近現代における音や声、そしてそれにまつわる問題が3つのセッションと、大学院生を中心とする新世代パネルを通じて活発に議論された。

1月29日[土]

●セッション I

【国家・政治との関係性のなかで】

ノリコ・マナベ(テンブル大学／スタフォード大学)

「アベール・ロード：ある時代の終わりににおける桑田佳祐の政治的パロディ」

須田珠生(日本学術振興会)

「近代日本の学校にみる校歌の成立：文部省による唱歌への規制と学校における校歌受容」

芝崎祐典(中央大学)

「音楽のための政治、政治のための音楽：ナチスドイツとアメリカ占領軍政府」

司会：日比嘉高(名古屋大学)

ディスカッサント：河西秀哉(名古屋大学)

●セッション II

【境界領域・多文化との接触のなかで】

葛西周 (早稲田大学)

「他者の声で歌う：ポピュラー音楽におけるナラティブの偽装」

トリスタン・グルーノ (名古屋大学)

「荒城のゴーストハント：植民地時代ソウルにおける都市再生と反帝ポップ」

王櫻芬 (台湾大学)

「マスメディアを通じて境界を越えて歌う：植民地時代の台湾における純純のケース」

司会：岩田クリスティーナ (名古屋大学)

ディスカッサント：星野幸代 (名古屋大学)

●セッション III

【ポピュラーカルチャー・大衆文化のなかで】

輪島裕介 (大阪大学)

「声とからだの泣き別れ、そしてめぐりあい：音盤と（で）踊る身体」

広瀬正浩 (桐山女学園大学)

「アンビエント・ミュージックをめぐる1990年代の日本の言説」

ジュリー・ロバルゾ・ライト (ウォーリック大学)

「音と映像：デヴィッド・ボーイの映画とビデオのスターダム」

司会：藤木秀朗 (名古屋大学)

ディスカッサント：朱宇正 (名古屋大学)

1月30日 [日]

新世代パネル

【音と声の人文学：身体・メディア・サブカルチャー】

梶川瑛里 (名古屋大学・ウォーリック大学)

「演じること／歌うこと：映画とテレビにおける薬師丸ひろ子の視聴覚的イメージ」

ケッレ・ガムゼ (名古屋大学)

「コロナの時代の愛：COVID-19がヴィジュアル系のファンと芸能人の関係に与えた影響」

林緑子 (名古屋大学)

「モノが人になるとき：『ヴァイオレット・エヴァー——ガーデン』におけるメディアを通じた女性の声」

企画・司会：高畑早希 (名古屋大学)、王馨怡 (名古屋大学)

ディスカッサント：石田美紀 (新潟大学)

●総合討論

司会：河西秀哉 (名古屋大学)

2. TCSセミナー



第11回

2021年12月10日

「接点に立脚し、境界を漫ろ歩く ——創作における日本、台湾、そしてマイノリティ」

会場：名古屋大学文系総合館7階カンファレンスホール

講師：李琴峰（作家・日中翻訳家）

企画：游書昱（名古屋大学博士後期課程）



第12回

2022年2月17日

「いのちの線引きの狭間で」

会場：名古屋大学文系総合館7階カンファレンスホール及び、オンライン (Zoom)

講師：木村友祐（小説家）

企画・司会：加島正浩（愛知淑徳大学非常勤講師）

3. 第8回 台湾大学・名古屋大学大学院生研究交流集会 「多様性からつながる人文学・日本研究」

2021年12月18日

会場：台湾大学博雅教学館301教室及び、オンライン



●基調講演

司会者：洪慧君（台湾大学日本語文学系副教授）

講師：飯田祐子（名古屋大学人文学研究科教授/超域文化社会センター長）

テーマ：女性作家と近現代文学史

司会者：林慧君（台湾大学日本語文学系教授兼学科長）

講師：宮地朝子（名古屋大学人文学研究科日本語学教授）

テーマ：日本語の機能語「ならでは」の文法変化をめぐって

●個人発表

司会：星野幸代（名古屋大学人文学研究科ジェンダー学教授）

発表者：林家淇（台湾大学日本語文学系修士課程）

テーマ：『騎士団長殺し』の中に歌われる愛——音楽的観点からの試み

コメント：日比嘉高（名古屋大学人文学研究科日本文学教授）

発表者：勝倉明以（名古屋大学人文学研究科日本文学博士前期課程）

テーマ：男子禁制という場で女が性を語ること／語らないこと

——織田作之助『二十番館の女』を中心に

コメント：吳勤文（台湾大学日本語文学系助理教授）

発表者：陳敏（名古屋大学人文学研究科ジェンダー学博士後期課程）
テーマ：暗黒街、プリミティヴィズムと上海の女工
——吉行エイスケ『新しき上海のプライヴェート』を視座に
コメント：田世民（台湾大学日本語文学系副教授／日本研究センター執行委員）

発表者：梁禾璿（台湾大学国家發展研究所修士課程）
テーマ：近代日中啓蒙思想の比較
——福沢諭吉と梁啓超の独立自尊説を中心に
コメント：河西秀哉（名古屋大学人文学研究科日本史学准教授）

発表者：趙爽（名古屋大学人文学研究科映像学博士前期課程）
テーマ：ニューメディア時代の日本アニメと中国——『ドラえもん』を中心に
コメント：彭春陽（淡江大学日本語文学系教授／台湾大学日本研究センター執行委員）

発表者：吉本裕史（名古屋大学人文学研究科日本語学博士後期課程）
テーマ：擬声語に由来する副詞の歴史的研究——中間報告と今後の展望
コメント：江雯薰（淡江大学日本語文学系教授）

4. 上野千鶴子氏講演・座談

30年目の『家父長制と資本制』中国・日本女性における今日的な意義

2021年7月16日 オンライン開催（Zoom）

主催：名古屋大学大学院人文学研究科 協力：名古屋大学男女共同参画センター



●講演

講師：上野千鶴子

●座談会

司会：飯田祐子（名古屋大学教授）

参加者：

上野千鶴子

譚娟（華中師範大学中国近代史研究所講師）

鄒韻（名古屋大学博士研究員）

薛梅（名古屋大学博士候補研究員）

●質疑応答

総合司会：星野幸代（名古屋大学教授）